



The logo features a blue stylized wave icon with a white fork and a white spoon. Below it, the text "Sea級" is written in blue with a white outline, and "グルメスタジアム" is written in a large, bubbly yellow font with a brown outline.



The logo for The Nippon Foundation, featuring a blue stylized wave icon and the text "日本財団 THE NIPPON FOUNDATION". To its right is the logo for the Sea and Japan Project, featuring a blue stylized wave icon and the text "海と日本 PROJECT".

2020

エリアイベント
実施報告書

秋田（男鹿）エリア



The logo features the word "ACTION!" in white on a red speech bubble background. To its right is the text "もっと、秋田が好きになる。" in black, followed by "ABS" in large, colorful letters (A is red, B is green, S is blue) and "秋田放送" in black.

1) エリアイベント開催概要

イベントタイトル	<p style="text-align: center;">海と日本プロジェクト Sea級グルメスタジアム in 秋田</p>
内容	<p>次世代へ海を引き継ぐために、海を介して人と人とがつながる“日本財団「海と日本プロジェクト」”の一環として開催。高校生による小学生を対象とした授業を通して、地元の海の現状と課題を伝えます。</p> <p>授業では、小学生に地元の海について興味を持ち、今後関心を深めてもらうため、秋田の海の問題、水産資源の有効利用に焦点を当てたカリキュラムを実施します。</p> <p>また、参加した高校生と小学生が水産物を使ったオリジナルパッケージ商品を製作。</p>
日程	<p style="text-align: center;">令和2年 7月17日（金）</p>
開催場所	<p>秋田県立男鹿海洋高等学校（秋田県 男鹿市） 秋田県漁業協同組合船川支所</p>
参加人数	<p>男鹿海洋高等学校 11名（生徒4人 教諭3人 実習船4人） 北陽小学校 21名（小学4年生～6年生児童16人 教諭5人）</p>
主催	<p>海洋キッズスクール実行委員会</p>
協力	<p>秋田県立男鹿海洋高等学校 男鹿市立北陽小学校</p>
企画協力	<p>男鹿海洋高等学校 大高英俊（主任教諭） 男鹿市立北陽小学校 石井太（校長）</p>

2) カリキュラム内容

<p>テーマ</p>	<p>ハタハタだけじゃねど！男鹿の魚っこ！</p>
<p>講座次第</p>	<p>【体験】 実習船「NAMAHAGE」乗船 ①プランクトンネット等を用いて、沖あいのマイクロプラスチックの調査を行う。 ②男鹿沖の漁場見学。 男鹿沖の課題に触れるきっかけに。</p> <p>【座学】 ①海洋環境について考えよう！！ ②秋田県で漁獲される水産資源の有効利用を考えよう！</p>
<p>講座内容</p>	<p>男鹿半島沖合は、寒流と暖流の各分枝の合流点となっており、好漁場を形成する条件を備えている。また、良好な藻場が広がり産卵場として最適なため、秋田の県魚「ハタハタ」漁場として有名。しかし、年々、漁獲高が下がっている。</p> <p>【体験】 実習船に乗船して ※海洋ゴミ（マイクロプラスチック）の問題について、実際に手に取って、調査。 ※漁場を見学して、男鹿の海の課題のきっかけにして、次のワークショップへの関心をつなげる。</p> <p>【ワークショップ】 ◆男鹿の海の課題 「温暖化」の影響＝定置網などの網類に急激に藻が付着する現象が多く確認され、網上げが困難になる。また、魚種の変化・漁獲の減少が問題。 ◆昔から「磯焼け」の問題は起きていて、年々悪化している。 産卵場となる藻場の減少は問題である。 ◆マイクロプラスチックの問題 = 原因は？ 海への影響は。 ◆男鹿沖の水産物の漁獲高の減少、秋田県の県魚「ハタハタ」など（産卵場所の減少・乱獲、など）県民の魚が高級魚に。</p> <p>【商品開発】 ◆秋田県で漁獲される水産資源を有効活用する必要性。。 ※新型コロナウイルスの影響で消費落ちている魚 ※大量に漁獲され、余剰となってしまった魚。味は良いのにサイズが小さく販売に向いていない魚 男鹿の魚の有効利用する。 男鹿産 「いわし 鯖」。 「ハタハタ」負けない「男鹿の魚っこ」を使った商品を作り、全国の人に男鹿の海の味を知ってもらおう！！</p> <p>児童の味のアイデアや思い、パッケージなどを案を元に男鹿海洋高校で試験を繰り返して、「イワシのかまぼこの缶詰」を製作。</p>

スケジュール

時間	項目	備考
9:00	北陽小学校から児童出発	大型バス1台で移動
9:30	秋田県漁業協同組合船川支所に全員集合	船川港
9:40	開会式	
10:00	体験授業（実習船乗船）	
11:30	下船・男鹿海洋高等学校へ移動	バス乗車 5分
11:40	座学「海洋環境について考えよう！」	男鹿海洋高等学校 生徒会長・小野滉平さん
12:30	昼休み	小学生弁当持参、高校生
13:00	ものづくり「漁獲される水産資源の有効利用を考えよう」	男鹿海洋高等学校教諭・大高英俊さんと生徒による共同指導
14:20	開会式	
14:30	終了・北陽小学生 男鹿海洋高等学校出発	大型バス1台で移動
15:00	北陽小学校児童 着	

特記事項

- ①
新型コロナウイルス感染予防策の徹底 国や県のガイドライン、両校の希望を踏まえて実施。
 「海と日本プロジェクト」事務局に新型コロナウイルス対策シート提出。
- ②
 当日は天候に恵まれ、「体験授業（実習船乗船）」を実施いたしましたが、荒天時の振替として、体験授業「かまぼこの製造体験」を準備いただいております。

実施報告

事前準備

開会式会場（秋田県漁業協同組合船川支所）横断幕、ポスター（10種）を掲出。会場内の消毒。



集合（9：20） in 秋田県漁業協 同組合船川支所

大型バスで北陽小学校児童が到着。
受付にて検温・消毒を実施。1メートル間隔で着席。



開会式 （9：40 ～10：00）

プロモーションビデオ上映。
男鹿海洋高等学校・船木校長、
秋田放送・川口部長 挨拶



参加児童に「学習ノート」配布。
ウーデンアナより'体験'と'学び'のポイントを説明。



実習船体験
(10:00
～ 11:30)
in 船川港 沖合

救命胴衣とマスクを着用し、男鹿海洋高等学校
実習船「NAMAHAGE」に乗船。



港から沖に30分、海流がぶつかる「潮目」に到着。
魚が集まる絶好のポイントでどのような魚が獲れるか解説。



実際の海はどうなっているか？「赤潮」らしきものが発生していた。



プランクトンネットを投入。海面の浮遊物や海水などを採取して調査。



マイクロプラスチックなど海洋ゴミの他、「赤潮」を確認。高校生から地元の海の現状と課題を掲示。この体験で関心を高め、次の座学に繋げて、より深い理解が得られるようにしました。



記念撮影

帰港後、二班にわかれて記念撮影。
その後、男鹿海洋高校に移動。



座学

(11:40
~ 12:30)
In 男鹿海洋高校

『海洋環境について考えよう』
男鹿海洋高校 生徒会長 小野滉平さんによる
授業の開始





自分たちの海（男鹿の海）が世界の168か国とつながっているという導入から、男鹿の海の抱えている課題について授業が展開されました。実習船で見た海の現状、マイクロプラスチックなど海洋ゴミは、どこから来るのか？「赤潮」は何が原因で発生するのか？自分たちの生活が影響していることを解説。また、秋田の海の抱える問題、県魚「ハタハタ」の減少をはじめ、男鹿で獲れる魚への影響、温暖化の影響、「磯焼け」なども、解説。自分たちの海の現状に高い関心をもってもらい、自分たちが今後何をすべきなのか、児童たちに考えるきっかけをつかんでももらいました。

商品開発
(13:00
~ 14:20)
In 男鹿海洋高校

『水産資源の有効利用を考えよう』
秋田県でとれる魚は30種以上。ハタハタだけではない。
おいしい魚はたくさんあります。

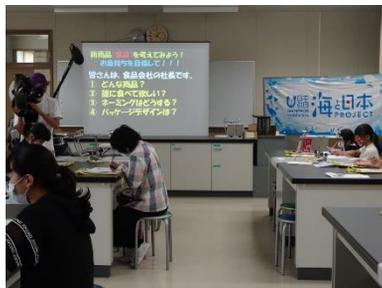


美味しいのに、たくさん獲れて余ってしまう魚、今回は「イワシ」を取り上げました。男鹿で獲れる魚を無駄にしないで有効活用しよう。



男鹿海洋高校の生徒が作った「イワシのかまぼこ」を試食。どんな味がよいか、男鹿の魚を全国の人に知ってもらうためにどのような工夫が必要か。どんな商品がよいか。誰に食べてほしいか。アイデアをだしてみよう。

男鹿の海を自慢できるような商品にするように指導いただき、ネーミングやパッケージデザインは「夏休み」の宿題。児童の案をもとに、男鹿海洋高校の生徒が商品化することを伝えて授業終了。



閉会式
(14:20
～ 14:30)
In 男鹿海洋高校

閉会の挨拶 北陽小学校 石井太校長
参加者にて記念撮影 閉会



<p>目的、狙い</p>	<p>海はみんなのもの、地元の海の課題を自分たちの生活でどうしていくべきか考えてもらう。そして、男鹿の海で育った魚たちを有効的に活用して、大切さを知り、それを全国の人に知ってもらうために商品名やパッケージを一生けん命、考えてもらうこと。</p>
<p>実施状況</p>	<p>本企画を各小学校と交渉するにあたり、海の近くに住んでいながら、自分たちの海がどうなっているのか？ 実感をもっていない児童が多いという話がありました。そのような子供たちに「地元の海が抱える課題に触れ、海の資源を大切にしてもらいたい」という趣旨を元の内容を構成してもらいました。</p> <p>当日は、先に「実習船」に乗船し、沖合の「潮目」で起こっている事象を実際に体験。「海ゴミ」の状況などを調査する目的でしたが、「赤潮」も発生しており、次の授業への関心がより高まるきっかけになりました。</p> <p>高校生による座学では、船の上から見た「マイクロプラスチック」「赤潮」について解説、さらに「磯焼け」「海の温暖化」「秋田の県魚ハタハタの減少」など秋田の海で起こっている問題についても触れ、「自分たちでできることはなんだろう？」と問題提起しました。</p>
<p>達成状況</p>	<p>小学校の多くの児童から「授業がわかりやすかった」、「楽しかった」「あかしおを初めて見た」などの声がありました。参加した子供たちが深い関心と興味をもって参加してくれたと実感しております。</p> <p>『海のことについてすごくわかりやすく、自分でもできるようなことをこれからやっていきたいと思いました。』（女子）「こんなにゴミが流れているなんて思いませんでした。もっと海をきれいになりたいと思いました。ごみを減らすにはどうしたらよいか考えてみたい。（男子）「海の潮目にたくさんのプラスチックゴミやお菓子の殻などがあった。これからは町で捨てられたごみや岸に流れついたゴミなどを拾ったりしようと思いました。』（男子）</p> <p>上記のように、自発的に行動を起こして、海を大切にしようとする児童が声がありました。</p> <p>こどもたちには、海で起こっていることが自分たちの身近な生活の中から起こっていることを知ってもらうことで、「海を大切にするために自分たちにもできることがある」（自分事化）と理解してもらえたと考えます。</p> <p>今回は「地元の海の問題」についてウエイトを置いたカリキュラムになりました。今後は、男鹿の「海の魅力」「すばらしさ」について体験もできるような施策をpushしつつ、高校側&小学校側と密に連携して、プログラムを構築できるようにしていきたいと考えます。</p>

配布資料

学習ノート

The materials include:

- A map of Japan highlighting the Sea Level Gourmet Stadium locations.
- A program overview page with the title "Sea級 グルメスタジアム 海の環境" and a list of activities.
- A detailed schedule for the program, listing dates from July 23 to July 31 and the corresponding activities.
- Informational cards such as "魚類の海がこぼれている？" (Is the sea overflowing with fish?), "秋田県で獲れる魚を知っていますか？" (Do you know the fish caught in Aomori Prefecture?), and "環境も大切しよう！" (Let's care for the environment!).
- Blank pages for notes, including a section for "まなび" (Learning) and "たいけん" (Experience).
- A section for "記録・感想をメモしよう！" (Let's memo records and impressions!).

メディア掲出

【テレビ放送】

- ① 7月23日 (木) 「ABS news every.」
18:15 - 18:55
- ② 7月31日 (金) 「えび★ステ」
15:50 - 16:50
- ③ 秋田魁新報社



秋田オリジナル商品
「イワSeaカレーかまぼこ」



<p>商品への思い</p>	<p>イベントでは、子供たちからは、「男鹿の海にはたくさんの魚がいて、たくさんの人に食べてもらいたいです。」「海のことを大切に、みんなが食べられる好きな味で作ってみたいと思いました。」という声がありました。</p> <p>また、地元の男鹿の海で水揚げされた獲れたての新鮮な美味しい「魚」でも、流通にのらない魚をたくさん目にしました。</p> <p>この男鹿の魚を使って、資源を有効活用し、地元の海の魅力を全国の方々に知ってもらおうと、小学生のアイデアを元に高校生が商品を製作しました。</p>
<p>パッケージ</p>	<p>ネーミングは、『商品を目にした時に「イワシ感」が伝わる』ものを選びました。</p> <p>小学生らしい面白いフレーズが、生徒みなさんの胸に響いたようです。</p> <p>デザインは、「今までにないような商品」をコンセプトに「魚の正面の絵」を描きました。ふつう魚の絵は「横向きの魚」がほとんどですが、「正面の魚」にすることで、商品に目がとまりやすい楽しいデザインとなりました。</p>



製作過程

8月下旬～
10月下旬

小学生の味のアイデアには、シンプルな塩味・トマト味などいろいろなものがありました。魚の嫌いな人でも食べてもらえるように、イワシの臭みを消しつつ、オイルとなじみやすい「カレー味」を採用しました。魚のうま味を生かすため、カレー風味が強くなるように分量などを細かく調整するのに苦労しました。また、「カレー味のかまぼこ」と相性がよく、油臭くならないように、キャノーラ油、ごま油、米油などのオイルの配合の研究など、味のバランスをととのえるまでに制作開始から商品完成まで3か月ほどの期間を要しました。子供からお年寄りまで、おいしくいただける「やさしい」味に仕上がりました。

商品製作

男鹿海洋高校 食品科学科 2年生 6名
3年生 12名

	商品完成 「おひろめ会」
日時	令和2年12月15日（金） 午前10：30～11：15
場所	秋田県男鹿市立北陽小学校
参加	男鹿海洋高等学校 5名（生徒3人 教諭2人） 北陽小学校 21名（小学4年生～6年生 児童17人 教諭5人）
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・共同開発した商品「イワSeaカレーかまぼこ」小学生へのお披露目と試食。 ・7月のイベント内容の振り返り ・男鹿海洋高校生徒監修の「学習ノート」配布



準備	北陽小学校・給食規定を参考に テーブルの消毒、試食準備（児童毎に皿を準備&事前の取分け）
----	--



商品発表	男鹿海洋高校 食品科学科 生徒2名による商品解説 児童のアイデアについて パッケージについて 商品化するまで、苦労した点など
------	---



感想

自分たちのアイデアが商品され「自分たちが考えたものなので、そんなに美味しいものではないと思っていたが、実際にはとても美味しかったのでうれしかった」、「お年寄りにも食べてほしいと思って考えたので、アイデア通りの商品になった」「自分も海を大事にしなが、開発できるような人になりたい」「男鹿の海の良さがパッケージに入っている」などの声がありました。



学習ノート配布 (振り返り 解説)

「学習ノート」を男鹿海洋高校監修のもと再編集。講師を担当した男鹿海洋高校・小野生徒会長から、7月イベント時に学んだことを復習（秋田の海の現状＝赤潮、マイクロプラスチック、海の温暖化など）

児童たちに学習内容を思い出してもらいながら、今後も継続的に自分たちの海の現状に高い関心をもってもらい、海を大切にすることを児童に伝えた。

小野会長の感想：

「7月に私たち海洋生が授業をしたことで、海にさらに興味を持ってもらい、身近な海でもこんなに知らないことが多い、今後も海を大切にしていこうと気づいてもらっていたので、とてもうれしかった。」



振り返り用 学習ノート

7月イベントの学習ノートを小野生徒会長はじめ男鹿海洋高校が監修

各科目 学習ノート

姓名 _____

学年 _____

はじめに

みなさん、本イベントを通じて「海と日本」について、いろいろなことを学びました。今回のイベントを通じて、いろいろなことを学びました。今回のイベントを通じて、いろいろなことを学びました。

男鹿半島の海と繋がっている世界の国は何国？

答えは？

10ヶ国

世界の海に、繋がっている国！

みなさん、世界中の海は繋がっています。でも、どの国がどの国と繋がっているのか？

1. 北極圏を海で繋がっている
2. 南極圏を海で繋がっている
3. 赤道を海で繋がっている
4. 赤道を海で繋がっている

世界の海がこぼれている！

世界の海がこぼれている！

「ハタハタ」が漏れている！

世界の海がこぼれている！

7月に船にのって観光しよう

7月に船にのって観光しよう

7月に船にのって観光しよう

世界の海がこぼれている！

世界の海がこぼれている！

世界の海がこぼれている！

海をぼろろ

海をぼろろ

海をぼろろ

海はみんなのもの！

海はみんなのもの！

海はみんなのもの！

海をぼろろ

海をぼろろ

海をぼろろ

海をぼろろ

海をぼろろ

海をぼろろ

海マルシェ

令和2年12月22日（火）10：00～16：00
In JR秋田駅ビル「トピコ」2階 特設コーナー



男鹿海洋高校生徒による動画メッセージ 放映



新型コロナウイルスの感染拡大および感染予防のため、小学生と高校生の参加は控え、事務局側で販売対応した。

販売コーナー前にてチラシ配布（100枚）。男鹿海洋高校の生徒から動画メッセージ（公式Twitter使用）、海洋キッズスクールオリジナル・インフォーマーシャル、海の郷土食キャンペーンCMを、販売コーナーにてモニター放映し、買い物客の目を引くようにした。

ABSラジオでは、12/21(月)「エキマイク」内13:43頃、当日12/22(火)「あさ採りワイド秋田便」8:21頃、計2回 60秒程度 イベント告知として番組内で取り上げた。

秋田オリジナル商品は限定100個で販売したが、閉店の16時前には完売。他エリアの商品も好評だった。